

グループホーム ほなみ

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている		
	理念は地域密着型としての位置づけを念頭に入れ、「地域に根差して安心・安全な生活。元気で楽しい生活。家族と同様」を掲げている。地域住民として自然体で生活していくことを目指している。		
2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる		
	理念の共有化を図る為に管理者・職員が話し合いの時間をもち、毎日の生活の中で実践できる様、入居者と共に唱和している。又、問題点が発生した時などにも理念の意味を再確認しあう。		
3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる		
	運営推進委員会・家族会等に防火訓練などにも地域代表の民生委員や利用者様ご家族にも参加をしていただき、事業所としての理念を理解してもらえよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
4	隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている		
	毎日の散歩の際に挨拶等を積極的に行い、夏祭りなどの行事の際には、地域の方への参加の呼び掛けを行っている。町内会に加入しリサイクル活動など、私たちにもできる地域への関係づくりに努めている。又、畑の作物の作り方や収穫の仕方など気軽に相談できる関係にある。		
5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている		
	町内会へ加入し、地域活動のリサイクル活動や敬老会、又、町内会婦人部の日帰り旅行にも参加し、地元の方との交流を深めている。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	町内会の集まりに参加し、地域の高齢者の暮らしに役立てる様「認知症について」の講習会や回覧板などを計画している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価を受け止め、地域密着型サービスの役割についての再確認を行い、ミーティングなどで話し合い改善に向けた取り組みを行っている。又、外部評価の意義を管理者、職員で理解し取り組んでいる。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2カ月に1度開催している。会議は地域との関わりやグループホームの理解を高める場として活用している。会議内容は市監査の状況やその結果の報告等を始め、防災訓練や食事の試食会、感染症の対応マニュアルや利用者様の事例検討会等々、昨年の水害による防災マニュアル等をテーマに行っている。又、今年度からは地域の防犯などに関して警察署にお願いをして参加してもらっている。		
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	介護相談員を毎月受け入れている。飯塚市の主催する研修等や介護相談員との交流会にも参加し、内容を施設に持ち帰り職員に周知できるように取り組んでいる。又、施設が抱えている問題やわからない点については電話にて相談している。		
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見人制度を活用されている入居者は1人いる。制度の利用については裁判所を訪問し、学ぶ機会を持っている。又、嘉飯桂主催及び社会福祉協議会が主催する人権研修には進んで参加し、人権に関する意識を高めている。職員への伝達講習も行き、司法書士との連携も図っている。		
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	飯塚市主催の高齢者に対する虐待についての研修などや社会福祉協議会が主催する研修等に参加し学ぶ機会を設けている。又、事業所内において虐待はないし、行わない指導を徹底している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約を結ぶ際には利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分に説明を行い理解、納得をして入所して頂いているが、中には事業所側の説明をよく理解されず、おきざりにする様に入居されるご家族もいる。その場合は後日、もう一度よく契約内容を理解して頂くよう説明している。</p>		
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>入居者と職員が何でも話せる様な関係作りに取り組んでいる。又、月に1回介護相談員の訪問の際に利用者の意見を聞かせてもらっている。帰られる際に匿名にて不満や意見などを聞かせて頂けるよう努力している。又、家族からの苦情や要望等も聞かせて頂ける様、家族会を開催している。</p>		
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、定期通信「ほなみ通信」を発送している。」利用者様の日常生活状況や毎月の行事報告などを行っている。又、地域での活動や新型インフルエンザなどの感染予防についてや水害等の被害報告などをお知らせしている。</p>		
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>定期的に家族会を開催し、施設の運営についての報告などを行い、家族からの不満や意見・相談事などを話して頂けるよう機会を設けている。</p>		
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>毎月、施設運営会議やミーティングを行い職員も参加している。介護技術の研修や運営に関する職員の意見、提案などを検討し反映させている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟に対応ができるよう、勤務の調整には努めているが、状況の変化などは突然に起こることが多く、その場合には連絡網により電話連絡にて召集し対応するようにしている。</p>		
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職については最小限におさえるよう努めている。異動などで職員が変わる場合は、説明を行い管理者がサポートできる体制を整えている。</p>		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	<p>職員の採用にあたっては、性別や年齢等に関係なく、働く意欲や必要な人材であるかを基準にしている。又、職員についても能力を十分に發揮できるよう、問題や悩みを抱えている場合は話を聞く機会を設けている。職員の資格取得の研修等は、勤務やローテーションを工夫しサポートできる体制にある。</p>		
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	<p>嘉飯桂地区・飯塚市主催の人権研修を受講している。又、職員の能力に応じて研修を受けることができるよう勤務のローテーションなどに配慮している。研修の参加、受講の感想など記録に残すよう努めている。</p>		
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護職としての質の向上を図るため、職員の能力に応じ研修を受ける機会を設けている。又、スキルアップを図るため、経験年数に応じ積極的に資格取得を支援している。実際に介護支援専門員合格や介護福祉士合格者がいる。</p>		
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他のグループホームや小規模多機能などと交流があり、相談しあえる関係作りをしている。食事や行事などについても意見交換を行えるよう取り組みしている。</p>		
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>管理者や職員のストレス軽減のため、交流会や職員のグループ旅行を提案し行っている。日帰りや1泊2日、2泊3日など各個人の家状況に応じたスケジュールをくみ、何グループかに別れて行っている。</p>		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	研修会の参加に伴いし、職員が希望する研修休などを配慮している。職員が向上心を持って働けるよう積極的に支援している。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	一般的に本人からの相談より病院のソーシャルワーカーを通じ家族からの相談が圧倒的に多いが、利用者については本人が待っていること、不安なこと、求めていることをゆっくり本人と向き合って聴き、受け止めるよう努力している。		
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	家族からの相談を受けた際は、管理者が時間を作り、静かな場所でゆっくりと聞く機会を設けている。家族が困っていること、不安なこと、求めていることなどを受けとめるよう努力している。		
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	緊急の入居が多いが、まず、本人と家族の話を聞き必要と思われる他のサービスも含めた利用を紹介するよう対応している。		
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	一般的に緊急の入居を求められることが多いが、まず利用者本人や家族に見学をしてもらい、施設での一日の生活の流れや施設の理念を十分に説明、納得してもらい安心して入居ができる様支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯物干し、たたみ、食器洗い、散歩の際の車イス押し等を手伝っていただき入居者が役割を持ちながら暮らせる支援作りをしている。また、朝の掃除の時には、入居者から「何か手伝おうか」と声かけられたりする。お互いの協力関係をつくりながらよりよい時間を過ごせるよう支援している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	運営推進会議や行事への参加など家族とともに入居者を支えていける関係作りをきづいている。時には、泣きながら話をされる家族もおられ、何でも話せる関係づくりを目指している。		
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	病気の為に家族との関係が悪くなって入居される利用者もいる。入居されて面会に来られないという状況も少なくない。できるだけ家族との関わりがもて良い関係に修復できるように支援している。また、そうでない家族もより良い関係がこれからも築いていけるよう支援している。		
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔からの友人の面会や馴染みの場所などは関係がとぎれないよう支援している。利用者が希望される場合は外出など家族に連絡をとり希望に添って支援している。		
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士でのトラブルも少なくないが、できるだけ話し合い職員がお互いのパイプ役になり人間関係がスムーズにいこう支援している。		
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないようつきあいを大切にしている。又、契約終了された家族が今でもたずねて来られ相談や悩みなどを話される。	契約が終了しても継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないようつきあいを大切にしている。又、契約終了された家族が今でもたずねて来られ相談や悩みなどを話される。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者個人の暮らし方の希望や意向は、家族からの情報に加え、3時のコミュニケーションタイムの時間に職員も同席し、昔の生活状況や趣味、今やりたいことなどを会話の中で把握できるよう取り組んでいる。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者個人の暮らし方の希望や意向は、家族からの情報に加え、3時のコミュニケーションタイムの時間に職員も同席し、昔の生活状況や趣味、今やりたいことなどを会話の中で把握できるよう取り組んでいる。		
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の申し送りを密にし、心身の状態や健康状態について把握できるよう努めている。健康状態については看護師である運営者より指示をもらい健康管理を怠らない。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	職員が全員均等なサービスの質を提供できるよう、生活リハビリやレクレーションについて色々なアイデアを取り入れ介護計画を作成している。		
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	入居者の個人の目標があり、1ヶ月又は3ヶ月の期間を設け、本人の健康状態にあわせ目標の実施や記録を行っている。達成状況により次のプランに生かせるよう取り組んでいる。		
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子や気づきを業務日誌に記録している。又、介護計画の見直しにも活用している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	地域の中で4ユニットのグループホームがあり、運動会や夏祭り、クリスマス会など合同で行うなど交流を含め、にぎやかに行っている。又、多目的ホールもあり作品展やボランティア活動の場になっている。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会に加入しリサイクル活動や敬老会などに参加している。又、民生委員の協力により地域ボランティアの慰問、バス旅行など地域との連携を図っている。防火訓練については消防署の指導を受けながら注意すべき事項の確認を行っている。		
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人が利用するには自費となるサービスもあり、それを家族や利用者が希望される場合は他のサービス事業所や介護支援専門員と話し合い支援を行うようにしている。		
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	在宅困難な事例で入居の相談が包括センターの職員からある。それには相談に応じ協働している。権利擁護についても協働している。		
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の主治医の往診があり、緊急時には飯塚病院、市民病院など医療施設との連携体制がある。安心して適切な医療を受けられるよう支援している。		
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	地域の認知症の専門医の研修に参加し、連携体制をとっている。緊急の場合は電話連絡でも対応して頂ける体制で相談や治療方針などを受けやすい環境ができています。		
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職員は非常勤で毎日勤務しており、利用者の日常の健康管理や医療活用を支援している。又、夜間での対応に困った場合でも看護職員が対応し支援している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	利用者が入院したときには、安心して過ごせるよう利用者の状態や精神面について、病院関係者との情報交換を行っている。又、できるだけ早期に退院できるよう2週間をめどに担当医と連携している。		
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	看取りの実績はある。指針を定め対応している。看取りについては本人のかかりつけ医と繰り返し話し合い、本人や家族の意向にそった支援を行っている。又、スタッフとはミーティングやケア会議、朝の申し送り等で方針を決めている。		
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	入居者が重度や終末期を迎えた場合、事業所で「できること、できないこと」を話し合い、主治医と共に家族に説明し、家族の希望にそった支援を行っている。		
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	住み替えによる環境の変化のダメージについて、本人や家族及び本人に関わる関係者間で十分な話し合いを行い新しい住み替え先の職員や家族への状態報告を行っている。		
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者個人の誇りやプライバシーについては、対応や言葉かけなど特に気をつけている。記録や個人情報は事務所の書類棚に管理保管している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	入居者の希望を表すことができるよう言葉かけには気をつけている。一人一人に合わせて説明を行い、できる限り自分で決めて頂ける様支援している。		
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の暮らしのリズムを大切に、体調などに配慮しながら日課の散歩を楽しんだり希望を聞きながら過ごしている。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	各入居者の方にはその人らしい身だしなみやおしゃれができるよう化粧品や写真たてなど各部屋において楽しまれている。理美容については本人が望む店にいけるよう家族に連絡をとり支援している。		
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の盛り付けや配膳を利用者と一緒に準備し、片付けは食器を洗う方、掃除が好きな方にわかれ、役割分担で楽しく行っている。		
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	本人の嗜好に合わせた、おやつを各個人の健康状態に応じて日常的に楽しめるよう支援している。「おやつバイキング」なども計画して行っている。		
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	できるだけ排泄はトイレを利用している。入居者の力が継続できるように2時間おきのトイレ誘導を行い、チェックリスト表を作成し、排泄パターンを把握して気持ちのよい排泄ができるよう支援している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回行っている。皮膚疾患の方が多く、個別対応で曜日や時間帯を変更し、清潔を保てるよう支援を行っている。		
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	早くから部屋に戻り編み物や読書を楽しむ方や仲の良い入居者の方とテレビを楽しむなど、各入居者の生活習慣に応じて支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人一人の力を活かし、洗濯干しやたたみ、茶碗洗い・モップかけなど役割をつくっている。又、施設の隣の畑を借り、大根・白菜・ブッコリー・じゃがいもなど野菜づくりを行い楽しみの一つにしている。		
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者の方でお金を持ち買い物ができる方もおられる。そういう方はジャスコ等に外出した時には希望に応じて支援しているが、ほとんどの入居者の方はお金を置いた場所、なおした場所を忘れられ、盗った、盗られたのトラブルに発展する。		
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出支援については敷地内や周辺の散歩をしている。又、施設内に畑をつくって入居者と一緒に収穫を楽しんだりしている。状態が悪く戸外へ出て行かれる方には職員と一緒に出かけ支援している。		
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	車を利用した遠方への外出は他の利用者全員ででかける機会を設けており、外食をしたり楽しい一日になるよう支援している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者本人が電話をかけたり、家族からの電話を取り次ぐ支援は日常的に行っている。又、自分で絵や文字を書き手紙を出される方もおられる。又、今年は地域の小学生からの年賀状も届き、楽しそうにそれを読まれていた。		
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族・知人・友人等の方たちの訪問は自由に行っている。お部屋にて過ごされる時には、冷暖房などの配慮をして楽しい時間を過ごせるよう支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	運営者をはじめ全ての職員は「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」は理解しており、身体拘束はしないケアに取り組んでいる。		
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関に鍵をかけることはなく暖かくなれば、玄関は開放しており、いつでも地域の方や来客者が遊びに来て頂けるようにしている。		
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は入居者のプライバシーに配慮しながら所在や様子を確認できるよう目配りや気配りを行い安全に配慮している。		
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	現金については預かって管理する場合もある。注意の必要な物品についてはよく話し合いを重ね、本人の納得、承諾を得て保管するようにしている。		
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止については、ミーティングや朝の申し送りなど各入居者の状態に応じて、ケアの方法を変えていくなど必要に応じたケアを実践している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	急変や事故発生については、緊急マニュアルにそって行う様職員には周知している。又、応急手当や初期対応の訓練を定期的に消防署等の研修に参加している。又、看護師でもある運営者より入居者の状態悪化の際には細やかな指示がなされる。		
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災や地震については昼夜を問わず非難できるよう訓練している。水害については防災マニュアルを作成し職員に周知している。又、防災マップを掲示し、緊急の場合の避難場所などについては、いつでも確認できるようにしている。		
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクについての説明は入居される時に契約書と一緒に家族によく説明を行っている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	月に2回の主治医の往診をお願いしている。毎日のバイタルチェックや食事や排泄チェック表で体調の変化や異常に早く気付き看護師に報告、主治医へ連絡を行っている。又、異変や急変の場合には看護師に緊急連絡、看護師より主治医にワンコールで連絡のつく体制を整えている。		
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については薬の目的や副作用、用法について理解をしている。又、服薬の支援と症状の変化を見守りながら確認している。		
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	施設内では規則正しい生活を第一として、日課の散歩やレクレーション等を行うケアビクス、体操などを取り入れて体を動かす工夫をしている。又、水分補給や野菜などの食材も工夫している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後、利用者の口腔ケアを行い、義歯を毎夜、洗浄剤にて殺菌・消毒をして清潔を保っている。又、定期的に歯科医の往診を受け、口腔内の状態を観察している。		
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの健康状態に応じて、主食の量を調整したり、水分量が不足しないように摂取していただくよう支援している。		
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	インフルエンザの予防接種は毎年行い、感染予防マニュアルは職員に周知徹底している。手洗い、うがいの励行に加え、病院受診の際には必ずマスクを着用していく。又、感染していると疑問視される訪問者の方には遠慮していただくよう家族にもお願いしている。		
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	台所の清潔は毎日行っている。又、冷蔵庫内は定期的にアルコール消毒を行い、消費期限については管理処分している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	利用者の家族や近隣の方が親しみやすく安心して出入り出きる様、スロープを設けたり花を飾るなどの工夫をしている。		
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールは天井が高く開放的な共有空間である。又、常に清潔を保ち不快な匂いもまったくない。壁には季節に合わせた作品や写真がかざられ、居心地の良い空間づくりに工夫している。		

グループホーム ほなみ

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中には3人掛けのソファや2人掛けのソファを配置しており、仲の良い入居者が座って話しをしたりテレビ鑑賞をしたりと思い思いの空間となっている。		
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりの居室の入り口には職員や入居者の手作りのネームプレートが飾られている。又、家族との思い出の写真等や個々の使い慣れた物を置いて居心地よくすごしていただけるよう支援している。		
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	気になる臭い空気のおよみがない様、24時間換気を使用している。又、朝・夕の散歩時には窓を開け換気を行っている。利用者の状況に応じ冷暖房を使用し温度調節を行っている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内部は廊下や自室の入り口には手すりが設置されており、できるだけ自分の足で歩いて頂けるよう工夫している。又、トイレ内部にも手すりが設置され自立した生活が送れるようにしている。		
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	一人ひとりのできる力を活かし、洗濯物を干す・たたむ、食器洗い、モップかけなど個々の力を活かし自立して暮らせる環境づくりに工夫している。		
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	施設の外周りには花を植え、入居者の散歩時に楽しめるようにしている。ベランダには4月頃より「こいのぼり」を建てるなど季節に応じた楽しみを工夫している。		

グループホーム ほなみ

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム ほなみ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

現在、事業として力を入れている点は、職員の質の向上及び地域の中での役割です。職員の質の向上の面から言えば、職員個人に何を学びたいのかを考えてもらい、年間の研修予定を決定する。研修の中には介護技術はもちろん利用者様の尊厳の問題、権利擁護の問題、身体拘束等々いろいろな分野が含まれる。また、利用者様自身が何を望んでいるのかを事例検討として取り上げ、「優しい介護を目指して」の研修課題では事業所全体で取り組んだ。もちろん、運営者自身も指導者研修にも参加、地域密着型としての役割などについて取り組んでいく姿勢である。地域の中での役割については課題が大きい、今作成中の「認知症について」の回覧板を地域への貢献の第一歩としたいと考えている。